

## キリスト教思想における自然諸問題

### 第一章 自然神学とその再構築

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1. 自然神学の成立とその意義 | 2. 中世から宗教改革       |
| 3. 科学革命と自然神学    | 4. 近代イギリスと自然神学の伝統 |

### 第一章 自然神学とその再構築

The Newton Project (<http://www.newtonproject.ic.ac.uk/index.html>)

長尾伸一 『ニュートン主義とスコットランド啓蒙』名古屋大学出版会 2001年

1. 1760年4月30日

「スコットランドの首都エディンバラで、自然科学、当時の表現では「自然哲学」に関心を持つ二五名青年たちが集まり、「ニュートン協会」という名前のクラブを創設した。」(1)  
 「ニュートン協会で描かれた「理想の科学者」ニュートンの像は、必ずしもイングランドでは十分に発展しなかったと言われるが、一八世紀スコットランドで展開した「キリスト教的科学者」の理念を導入した。」(26)

2. 「ジェイコブの研究は実証手続き上の誤りと、科学革命と「資本主義」を単純に結びつける傾向のため厳しい批判を受けており、現在では支持できない。自然観と政治思想の間にはジェイコブが考えるような一対一対応はなく、それらと社会的利害の結びつきも単純ではない。しかしニュートンの理論と自然神学を結びつけた初期の「ニュートン主義」が、穏健な近代化を志向する政治的傾向とを帯びていることは、批判者たちも否定しない。」(15)

3. 「ニュートン主義」の諸相

「啓蒙全体に及ぶニュートンの影響は「ニュートン主義」と概括されることが多い」(22)

「初期ニュートン主義」

ボイル・レクチャー、ライプニッツ＝クラーク論争、ニュートン周辺の広教会派神学者による神学的ニュートン主義

4. 「ニュートン・プロジェクト」

『光学』の「分析と総合」の方法論

「ニュートンは物理学で自身が使用したと主張する方法を自然科学の全分野に適用し、その成果によって自然神学と倫理学を建設することを呼びかけている。」(27)、「一八世紀初頭にはこの思想に従って、ボイル・レクチャーに参加したサミュエル・クラークやリチャード・ベントリーたちは、ニュートンの自然研究の成果を使って、科学的にも宗教的にも「正しい」神学を建設しようとした。」(27-28)

「「新しい科学」の学説によって道德哲学の全体を再構築するというプロジェクトにはるかに真剣に取り組んだのは、キリスト教的科学者の思想を体現しようとしたスコットランド人たちだった。彼らはニュートンの学問的方法をこの領域に持ち込むことによって、それを実現しようとした。そのためスコットランドの初期ニュートン主義は、物理学や数学

というよりも、むしろ倫理や政治学などの領域への拡大を特徴とする。じじつランケニアン・クラブに始まるスコットランド哲学の形成は、クラークの自然神学や、これに対するパークリの批判を検討することから始まったのだった。」(28)

田中正司 『アダム・スミスの自然神学』御茶の水書房 1993年

田中秀夫 『スコットランド啓蒙思想史研究』名古屋大学出版会 1991年

塚田理 『イングランドの宗教』教文館 2004年

## 5 . 進化論論争と自然神学

### 1 . 自然神学の伝統と生命論

#### (1) ニュートン主義の自然神学と生命論

1.

「『ボイル・レクチャーズ』とは、ニュートンの先輩格にあたるロイヤル・ソサイエティの指導的なクリスチャン・ヴァーテュオーソ(キリスト教徒科学者)ロバート・ボイルが、一六九一年十二月三十日の死に先立ち、年五〇ポンドの基金を遺贈したことによって行われるようになった一連の記念講演のことである。その主要目的は、『悪名高き不信心者、つまり無神論者・理神論者・ユダヤ教徒・マホメット教徒に反対して、キリスト教徒間の論争には及ぶことなく、キリスト教の正当性を立証するために、年に八回の講話を行うこと』であった。そのために基金運用理事会が設けられ、この理事会が年毎の講演者を決めることになった。注目すべきは、この連続講演者の中に、ニュートンの思想を受けた若きニュートン主義者が幾人も選ばれたことである。」(佐々木力[2000(1992), 295頁])

#### 2. リチャード・ベントリー 『世界の起源と構造からの無神論論駁』

「人間本性の価値に過度の評価を与えることなしに、我々は有徳で宗教的な人間の魂が太陽やその惑星や世界のすべての星よりも大きな価値があり卓越性を有することを肯定できるかもしれない。」(Bently[1693], p.356)

「天体がこのようなすばらしい物体の力ある制作者そして統治者という偉大な観念とそれに対する崇拜とを我々の内に生み出し、我々の心を刺激してその存在者に対する敬愛と讚美へと高めるということを、もし諸君が語るとすれば、諸君はまさに真実かつ適切に語っているのである。」(ibid., p.357)

3.

「我々は次のように合理的に結論づけることができるであろう。つまり、現在の組織(世界システムの)は物質的原因の必然性や想像上の偶然という目的のない混乱から生じたものではなく、知性的で善なる存在者から生じたのであり、この存在者は現在の組織を選択と意図(design)によって特定の仕方形成したのである。」(ibid., p.361)

#### 4. ベントリーの自然神学：その後の近代イギリスの自然神学によってその方向性を示す自然神学がニュートンの自然哲学(『プリンキピア』)とキリスト教信仰との一致とい

う確信に支えられていたことは、重要な意味を持っている。自然神学の説得力とは、新しい科学によって神の創造した世界秩序が発見されるという信念、あるいはそのように考えることの合理性への確信に基づいている。自然神学がベントリーが行ったようにニュートン主義として出発したことは、この信念あるいは確信が天文学、物理学のその後の展開過程においてその信憑性が問われねばならなくなることを意味する。

第3回(5月2日)、第4回(6月6日)、第5回(9月5日)の講演『人体の構造と起源からの無神論論駁』:人体の構造に基づくデザイン論。

## (2) 自然神学の生命論 - レイの自然神学 -

### 5.

「ニュートンの体系は多くの者にとって、世界が自己支持的な機構であり、その日々の働きのためには、神的支配あるいは維持を必要としないことを示唆しているように見えた。18世紀の末までに、多くの人々にとって、ニュートンの体系は信仰よりも無神論や不可知論に導くように思われた。これは、ラプラスの『天体力学論考』 - 宇宙論において事実上神(説明的仮説あるいは活動的な保持者として)の必要性を排除した - と、詩人ウィリアム・ブレイクの著作 - ニュートンの世界観がしばしばサタンと同一視されている - との双方に反映していると見ることができる。」(McGrath[1998],p.68)

### 6. レイ『創造のみ業に顕れた神の知恵』(1691)

「同書はそれまでの自然神学書の集大成であった。レイ自身の豊富な自然史研究を背景にしたデザイン論は説得力に富んでおり、同書はその後の自然神学書の模範となった。しかし元にしたモアの著書に引きづられて内容構成が錯綜しており、改版による大幅な加筆がそれを増大している。そのため一八世紀にはデラムの『自然神学』の方が多く読まれ、レイの思想は同書を通じて広まっていった。リンネもデラムの『自然神学』のスウェーデン語訳を読んで自然史の宗教上の意義を確信したのである。デラムはレイと親しく、レイの遺稿を整理したのもデラムであった。」(松永[1996], 43頁)

### 7. レイの自然神学の意義と方法

「神性の信念はすべての宗教 - 宗教とは敬虔に神を礼拝すること、あるいは神に仕えそして礼拝するという心の傾向性に他ならない - の基盤である。なぜなら、神へと来る者は神が存在することを信じなければならないからである。この主要な論点を十分な説得力をもって確固たる仕方で解決し確立することは、きわめて重要な事柄である。さて、これは自然の光と創造のみ業とから引き出された論証によって論証されねばならない。……自然の光によって、人間は神性の存在を十分に確信するのである。実にこの根本的真理についての超自然的論証は存在しているが、しかし、それはすべての人間あるいは時代に共通ではなく、無神論の人間によって難癖を付けられ除外されがちなのである。」(Ray[1691], pp.iv-v)

8. 理論的に武装した無神論者を合理的に（自然の光からの論証にとって）論駁し、キリスト教的宗教の基盤である神の存在を説得的に論証すること。もちろん、こうした自然神学における合理的論証は、聖書に与えられた神の啓示と矛盾するものではなく、聖書も自然神学も、こうした神の御業の讃美において同じ目的を有しているのである。「恒星がかくも夥しい数の太陽であるというこの仮説は神の偉大さと荘厳さによりかなっているように思われる。」(ibid., p.3)

9. 論駁すべき三つの仮説(Hypotheses) - 「いかなる卓越した非物質的な行為者の干渉や助力なしに、物質について機械的論仮説によって宇宙の形成を説明しようと企てる」(ibid., p.11) - として、アリストテレスの学説、原子論（エピクロスあるいはデモクリトス）、デカルトの機械論の非合理性を順次論じてゆく。

10. デカルト説 (ibid., pp.20-40)。モア、カドワース、そしてニュートンの反デカルト主義

「自然の中には、機械的力の作用を超えていたり、あるいはそれに反しているため、機械的力の作用によっては、目的因と何らかの生命原理なしには解き得ない多くの現象が存在する。例としては、重力や物体への落下の傾向性が挙げられる。」(ibid., p.26)

11. 「わたしは、動物を単なる機械というよりはむしろ、低い程度の理性が与えられていると考えるべきである」(ibid., p.38)。

12. 議論の概略、まず天体から地球へ（天から地へ）と進められ、次に生命の世界へ。

1. 天体(pp.45-51) 2. 地上の生命のない単純な物体(pp.52-63)：火、空気、水、地

3. 大気現象(pp.63-66)：雨、風 4. 生命のない複合的物質(pp.67-73)：石、金属

5. 野菜あるいは植物(pp.74-86)

6. 感覚的魂を与えられた物体、すなわち動物(pp.86-134)：鳥、魚、...

7. 被造物からとくに選ばれた二つの考察対象：

全体としての地球(pp.134-150)、人間の身体

8. 人間の身体(pp.151-223)：他の生物の場合と比較しつつ。

直立姿勢(pp.151-169)、目(pp.169-185)、耳(pp.185-187)、

歯・舌・気管・心臓・手・骨・筋肉(pp.187-223)

9. 道徳・宗教（身体の解明に基づく実践的な推論 = 人間論）(pp.223-249)

13. レイの議論のポイント

レイの自然神学は、最初に確認した無神論的な仮説の取り扱いからもわかるように、基本的な枠組みはベントリーと同じであって、その意味でニュートン主義の自然神学に属するものと言える。また、天体や生命のない被造物にも一定の頁が割かれており、宇宙の全体から人間へという議論の枠組みが確認できる。

しかし、ベントリーと比べてわかるように、レイでは、記述の大きな部分を使って、生命体、とくに人間が扱われており、レイの関心が天体や無生物ではなく、むしろ、自然史研究が問題にする生きた生命体や人体であることは疑いもない。無神論的な仮説を論駁する場合も、基本的には先行する諸研究（カドワース、ボイルなど）を参照する程度にとどめた議論であり、レイの関心がニュートン的な自然哲学とは異なったところにあったこ

と示唆しているように思われる。我々はレイにおいて、その後のペイリーに至る自然神学の発展の方向性、つまり神のデザインを論じる主要な場の移行の発端を確認することができるのである。

研究者も指摘するように、レイの議論においては、人間の身体について、とくに目と視覚との分析が詳細になされている点に特徴がある。もちろん、人間の目の仕掛け(contrivance)の完全さや巧みさを論じるということの目的も、「我々の身体の完全さと完璧さに対して全能の神に感謝」(ibid., p.223)することにあつたことは言うまでもないであろう。

レイの自然神学は後の自然史研究に大きな寄与を与えたものであるが、しかし、それは倫理学や宗教論、あるいはそれらに基づく人間論への展開を含むものであつた。レイは、「人間の身体に関する言述から、三つの実践的推論を行おう」(ibid.)と述べているが、これは人間の身体の科学的分析から道徳と宗教へ踏む込むものであり、自然神学がまさに「神学」としての性格あるいは問題意識を有するものであることをよく示していると思われる。

### (3) 自然神学の生命論 - ペイリーの自然神学 -

#### 14. ペイリーの『自然神学』：ニュートン主義の自然神学の発展の到達点あるいは集大成

「一九世紀に入ると、デラムに代わって一八〇二年に刊行されたペイリーの『自然神学』が自然神学の標準的な教科書となった。……一九世紀前半、イギリスの科学者の大半はペイリーの信奉者であつた。ダーウィンの進化論もペイリーの自然神学を土台として生まれてきたのである。ペイリーは独創的な研究者ではなく、教科書の執筆者として優れた能力を持っていた。ペイリーの主要な著書には『自然神学』のほかに、一七八五年刊行の『道徳・政治哲学の原理』と一七九四年刊行の『キリスト教証権論』があるが、いずれも教科書として高い評価を得ていた。」(松永[1996], 47-48頁)

#### 15. デザインを論じる場の移行

「天文学についてのわたしの意見は常に次のようなものである。すなわち、わたしは、天文学は知性的な創造者の作用を証明するのに最適の手段ではなく、またこれが証明された場合には、天文学は、他のあらゆる諸科学以上に神の働きの壮大さを示すと考える。一度説得された精神を、天文学は他のどんな学科が与えるものよりも、もっと卓越した神性の方へ引き上げるのである。しかし、天文学は他のいくつかの学科と同様に、論証という目的にはあまり適していない。我々は、天体の構成を吟味するための手段を欠いているのである。天体のきわめて単純な見かけが、吟味の手段にとって不利になっているのである。我々が見るのは、明るい点、輝く領域、そしてそれらを照らす光を反射する天空の相にすぎない。さて、我々は諸部分の関係、傾向、対応からデザインを推論する。それゆえ、この種類の論証にふさわしいテーマを提示するには、一定程度の複雑さが必要になる。しかし、天体は、おそらく土星の輪の場合を例外として、諸部分から複合されたものとしては我々の観察に現れないのである。」(ibid., pp.263-264)

16.17 世紀のニュートン主義と 19 世紀初頭のペイリーとの歴史的状況の相違、とくに天文学や物理学をめぐる知的状況の変化。啓蒙主義。村上陽一郎の「聖俗革命」。

「この革命には、大雑把に言って二つの段階がある。その第一は、知識を共有する人間の側の世俗化がそれであった。神の恩寵に照らされた人間だけが知識を担い得る、という原理から、すべての人間が等しく知識を担い得る、という原理への転換である。F・ベーコンに、その最も典型的な発想を見ることができる。第二の段階は、知識の位置づけのための文脈の転換であった。神 - 自然 - 人間という文脈から自然 - 人間という文脈への変化がそれである。その変化のなかで、科学と哲学とが、それぞれに独立するというプロセスが付随する。」(村上[1976], 25 頁)

17. 「この聖俗革命の二段階が、ある時期を区切って、明確な形で起こっている」(ibid.) わけではない。しかし、まさに「大雑把に言って」、「一六・一七世紀に起った知の世界における革命を、理論上の革命とするならば、一八・一九世紀に起ったそれは、各科学理論を支える形而上学的な枠組みの革命であった」(ibid., 26 頁)。

18. 諸科学における聖俗革命の進み方の多様性

#### <文献>

- Bentley, Richard : A Confutation of Atheism from the Origin and Frame of the World., 1693  
in: I. Bernard Cohen (ed.), *Isaac Newton's Papers & Letters on Natural Philosophy and related documents*, Harverd Univ. Press 1958
- Jacob, Margaret C. : *The Newtonians and the English Revolution 1689-1720*, Gordon and Breach 1976
- Lindberg, David C. and Numbers, Ronald L. (eds.), *God & Nature. Historical Essays on the Encounter between Christianity and Science*, University of California Press 1986
- Livingstone, David N., Re-placing Darwinism and Christianity, in: David C. Lindberg and Ronald L. Numbers (eds.), *When Science & Christinity Meet*, The University of Chicago Press 2003
- McGrath, Alister E.: *The Foundations of Dialogue in Science & Religion*, Blackwell 1998  
: *Science & Religion. An Introduction*, Blackwell 1999 (稲垣久和他訳『科学と宗教』教文館)
- Paley, William: *Natural Theology* (1802), in: *The Works of William Paley*, Thoemmes Press 1998
- Ray, John : *The Wisdom of God manifested in the Works of the Creation* (1691), Georg Olms Verlag 1974
- 佐々木力 『近代学問理念の誕生』岩波書店 2000(1992)年
- 長尾伸一 『ニュートン主義とスコットランド啓蒙』名古屋大学出版会 2001年
- 村上陽一郎 『近代科学と聖俗革命』新曜社 1976年